

平成23年度個別施策ヒアリング資料(詳細な見解付け)【経済産業省】

施策番号	27116	施策名		セルロース系エタノール革新的生産システム開発事業			
新規／継続	継続	領域	グリーン・イノベーション	国際的位置付け	上位	AP施策	○
競争的資金		e-Rad		社会還元	バイオマス		
施策の目的及び概要	食料問題や環境問題に配慮したバイオエタノール生産システムを確立する。						
達成目標及び達成期限	バイオ燃料生産のビジネスモデルと社会的評価システムを同時に構築することにより、民間事業者の当該部門への参入を促し、バイオ燃料の生産や利用の拡大を図る。これにより、エネルギー供給源の多様化、エネルギー安全保障の確保、運輸部門における石油依存度の低減を図るとともに、地球温暖化防止にも貢献する。						
研究開発目標及び達成期限	平成22年6月に閣議決定した「エネルギー基本計画」におけるバイオ燃料の導入及び拡大、開発輸入促進による安定確保を実現すべく、2020年までにバイオエタノール生産コスト40円／リットルを目指し、低コストかつ安定的生産が可能な革新的生産システムを開発、構築する。						
23年度の研究開発目標	エタノール製造コスト40円／リットルを達成するシステムの構築を目指し、資源作物の栽培及びエタノール生産システムの研究開発を推進する。また、バイオ燃料の持続可能性についても調査を実施する。						
施策の重要性	エネルギー基本計画におけるバイオ燃料の導入及び拡大を実現する上で重要な政策である。						
実施体制	民間企業、大学等との連携体制を構築して技術開発を実施。得られた成果に基づき、製紙事業者、石油事業者が実用化・事業化の担い手になる予定。						
H22予算額(百万円)				H23概算要求額(百万円)			
1,900				2,424			
独立行政法人名(運営費交付金施策のみ)				NEDO			
H23概算要求額の内訳	機械装置等費:1,492 人件費:289 その他経費:262 間接経費:204 公租公課:16 消費税:112 研究開発管理費:48 －						
期間	H21～H25			資金投入規模(億円)		77	
これまでの成果(継続のみ)	資源作物の栽培、前処理・酵素糖化・発酵等の要素技術の開発を進めると共に、試験プラント建設の詳細設計を実施し今秋から建設着工する。また、バイオ燃料の温室効果ガスについてもLCAによる標準的排出量の算定を実施。						
社会情勢・技術の変化(継続のみ)	・平成20年3月に経済産業省が取りまとめた「バイオ燃料技術革新計画」において、食料と競合しないセルロース系バイオマスを原料としたバイオ燃料製造の画期的な技術開発を推進することとしている。 ・また、平成22年6月に新たな「エネルギー基本計画」では、バイオ燃料についてLCAでの温室効果ガス削減効果等の持続可能性基準を確保しつつ2020年にガソリンの3%相当以上、2030年に最大限の導入を目指すとされている。						
昨年度優先度判定		優先度判定時の指摘		当初から、LCAによる温室効果ガス排出量、食			

(継続のみ)	優先	への対応(継続のみ)	料との競合等の持続可能性の検討と並行して、研究開発を推進しているところ。
国民との科学・技術対話推進への対応(対象施策のみ)		アウトリーチ活動実施の具体化に向け検討中	